

## 36. 妊産授乳婦の栄養について (第5報)

### —母乳について—

宇都宮大学芸 井上 藤

1. 昨年に引つづき授乳婦の栄養摂取量の実状を調べ所要量の再検討に資するため、母乳の成分を測り食品成分表の値と比較すること、乳汁の成分と乳児の発育との関連を調べること、等を目的とした。

2. (1)出産後1ヵ月～6ヵ月までの間の授乳婦の栄養摂取量を秤量法によって調査し、その結果を所要量と比較した。(2)乳児の哺乳量をはかり従来発表されているものと比較した。(3)乳児の体重を測定した。(4)母乳を搾乳して蛋白質、脂肪、カルシウムの含有量を調べこれ等と食品成分表の値とを比較した。

3. (1)授乳婦の栄養摂取量は個人差が大きいが必要量と比較すると一般的に、カルシウムとビタミンAの摂取量が少ない。蛋白質、脂肪は所要量より多いものがある。(2)哺乳量は従来発表のものに比較すると一般に生後1, 2ヵ月は多く、5, 6ヵ月になればあまり増加しない。(3)乳児の体重増加は一般に優れている。(4)乳汁の成分は蛋白質は比較的個人差が少なく、成分表の値と大差がない。脂肪は個人差が大きくその差は5gにも達しているものもある。カルシウムは個人差は少ないが一般に成分表の値より少ない結果となった。